

視点(879)

野球哲学と成果とイチロー選手(その2)!!

(流通とSC・私の視点(878)から続く)

成果の紙一重の原則及び天国と地獄の理論があります。成功と失敗は、ほんのわずかな差で決定するという考え方であり、「もう一步の行動や努力や考察」が足りないばかりに失敗する、あるいは成果が出ないことを意味します。

野球で喩えれば、2割5分のバッターは125本(年間500打数)のヒットを打つ選手ですが、年俸は2,000万円(5~10年前の事例。今は4,000万円?)、しかし、もう25本余分に打ち150本のヒットを打つと3割バッターとなり、年俸は1億円(今なら2億円?)となります。さらに、もう25本余分に打ち175本を打つと3割5分バッターとなり、年俸は5億円(今なら10億円?)となります。

つまり、25本ヒットが増えるたびに5倍の成果(年俸)が出るという考え方です。ただし、125本までを打つ野球技術とその後の25本を打つ野球技術は根本的に異なり、125本までの野球技術と同じ努力の延長線上では、打率も上がらず成果も出ません。野球技術論だけで述べると、「外野フライを打つ技術(力)を持っていれば誰でもホームラン王になることができる」、また「一定の速さで内野ゴロを打つ技術(力)があれば誰でも首位打者になることができる」のです。飛躍的な成果を創出(イチロー選手はまさに創出)するためには、全く異なるレベルのノウハウ(イチロー選手はまさにノウハウ)が必要なのです。

イチロー選手の飛躍的な成果を出すノウハウを、私なりに解明させていただきました(六車流:流通理論)。

(1) 未来発想の野球ノウハウ

イチロー選手はメジャーの伝説を越えた男と言われ、頂点を極めても、そのまだ先に行くために常に挑戦の連続です。常により高い成果を出すために、弱い自分を捨て、過去のイチローを捨てて、毎年新たな手法を導入しています。毎年、打ち方を変えるために、思い返すと、今までよくあれで打てたなぁと感じ、いつもようやくスタートが切れたと感じるそうです。昨年(2007年度)は、今までより30cm離れて打席に立つようになり、ちょっと離れてバッターボックスに立つと景色(野球を見る視点)が変わったそうです。

(2) 仮説・検証の実験的な野球ノウハウ

イチロー選手は、こういうことをやると、こうなると、色々なことをやるとすべて実験的に結果を求め、常に因果関係を追求しています。毎日毎日の野球の試合は、次の成長のための実験であり、常に仮説を立て、結果を検証する手法を行っています。

(3) 反復行動の中からの野球ノウハウ

イチロー選手は、毎日同じ行動をとることに徹底的にこだわっています。練習も自分のオリジナルな手法で行い、また、すべての時間をきちんとこなしています。同じ所作を繰り返すと集中力が高まるそうです。ちょっと意味が異なりますが、朝食と昼食を兼ねて7年間、毎日同じ味・同じバランスのカレーライスを食べているそうです。また、DVDで白い巨塔を30回以上、見ているそうです。

(4) 身物一体化の野球ノウハウ

イチロー選手は頭でイメージしたことを体で表現するために神経の伝達力を高める運動をしています。また、スリムな体の方が伝達しやすいため、身長は180cmですが、体重は77kgに保っています。バットやグローブにも、頭でイメージしたことをバットやグローブまで伝えるために、自分の体に同化させる手法を考え、バットを太ももにこすりつけ、バットやグローブを自分の分身化しています。

(5) 頭の切り替え手法の野球ノウハウ

イチロー選手は、常に重圧があり、精神的に限界があると感じ、重圧から逃げずに、逆に自分に重圧をかけ、正面から重圧に向かい合う姿勢をとっています。それゆえ、この緊張感を和らげるために、野球と家庭あるいはイチローと鈴木一郎を使い分けています。車に乗って球場が見えるとイチローになり、自宅のドアを開けた瞬間、緊張感が溶けて鈴木一郎になるように頭の切り替えをしています。いわゆる本物の仕事と息抜きを見事に使い分けています。

(視点880へ続く)

(株)ダイナミックマーケティング社³
代 表 六 車 秀 之